桜ケ丘だより

鹿児島大学病院広報誌

Kagoshima University Hospital PR News

特集 脳神経内科・脳神経外科のご紹介

看護部トピックス

C棟3階病棟　脳神経内科
B棟3階病棟　脳神経外科

歯科診療部門トピックス

歯周病科「歯周病の治療は糖尿病の改善に有効とされています」

臨床技術部トピックス

リハビリテーション部門「食事の姿勢の話」

56
2021.4

脳神経内科

Neurology

患者一人一人に合わせた最善策を追究し、世界レベルの診療と研究、教育を実施。

ー「患者中心の診療を貫く」という基本ポリシーについて、少し詳しくお話しください。

脳、脊髄、末梢神経、筋肉の病気に対する内科的治療を担当するのが脳神経内科です。頭痛、めまい、意識障害、手足の動きが悪い、物忘れ、しゃべりにくい、手足がふるえるなどの症状を診ています。診断が困難な病気や治りづらい病気について、徹底的に突き詰め、一人一人に合わせた最善策を導き、世界レベルの診療を提供することを目指しています。とりわけ、筋生研、神経生研などの検査については、高性能の設備と専門スタッフが充実しており、全て院内で実施できる体制にあります。一般的に1ヵ月要する検査も、およそ2日で結果を得ることができ、迅速に治療に入ることができます。また、筋電図検査、遺伝子検査についても、国内でも有数の実施件数となっています。

ー患者さんに徹底的に向き合う診療から、世界に貢献する研究成果も生み出されているのですね。

私たちは、地域に根差す大学病院として、病気由来ではなく、あくまでも患者由来の研究（Patient-oriented research）を行うことを基本にしています。当科に関連のある患者さんや、南九州で起こっている問題を解決することが鹿児島大学の使命と考えるからです。その代表的な例がHAM（HTLV-Ⅰ関連脊髄症）です。当科の前教授であった納光弘らによって1986年に発見されました。その研究成果は、診断、検査、治療など多岐にわたっており、発見当時から現在に至るまで、世界をリードする役割を担っています。

ー限られた病床数で難病の患者さんの診療にあたっておられますね。

21床の貴重な病床ですので、大学でしか診ることのできない難病の患者さんの治療を優先して、有効活用することを目指しています。地域の関連病院および病棟看護師長、コメディカルスタッフと密にコミュニケーションをとり、早期の退院支援を行っています。比較的ポピュラーな脳血管障害や脳卒中、脳梗塞などの患者さんについては、地域の拠点病院に当科の医師およそ100名を派遣し、連携をとりながら診療にあたっています。

（聞き手：鹿児島大学病院 広報担当副病院長 宇都 由美子教授）

真摯に向き合う

Profile

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
脳神経内科・老年病学

髙嶋　博 教授（脳神経内科　部門科長）

1990年　鹿児島大学医学部　卒業
1997年　鹿児島大学大学院医学研究科　修了
1997年　菊野病院
2000年　米国ベイラー医科大学　Post-doctoral fellow
2007年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経内科・老年病学　助手、助教
2010年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経内科・老年病学　教授
2017年　鹿児島大学病院　副病院長（人事・労務担当）
2020年　鹿児島大学病院　病院長補佐（研究・医科担当）

鹿児島大学病院　脳神経内科

橋口　昭大 講師（医局長）

1998年　鹿児島大学医学部　卒業
2000年　国立療養所　沖縄病院
2003年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2008年　藤元早鈴病院
2010年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2015年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　脳神経内科　助教
2017年　鹿児島大学病院　脳神経内科　講師
2020年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経内科・老年病学　医局長

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
脳神経内科・老年病学

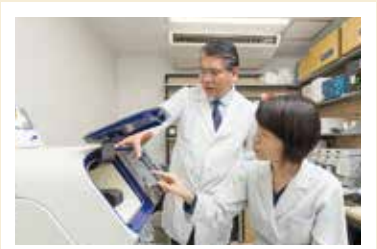
崎山　佑介 講師（病棟医長）

2002年　鹿児島大学医学部　卒業
2004年　国立病院機構　沖縄病院
2007年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2013年　恒心会おぐら病院
2015年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2017年　鹿児島大学病院　脳神経内科　助教
2020年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経内科・老年病学　講師
　　鹿児島大学病院　脳神経内科　病棟医長

鹿児島大学病院　脳神経内科

樋口　雄二郎 助教（外来医長）

2003年　鹿児島大学医学部　卒業
2005年　県立大島病院
2007年　国立病院機構　沖縄病院
2010年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2015年　菊野病院
2016年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　修了
2020年　鹿児島大学病院　脳神経内科　助教
　　鹿児島大学病院　脳神経内科　外来医長



常に最善の医療を目指して

Profile

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
脳神経外科学

吉本　幸司 教授（脳神経外科　部門科長）

1995年　九州大学医学部　卒業
2002年　九州大学大学院医学系研究科　修了
2004年　カリフォルニア大学ロサンゼルス校(UCLA) 病理学教室　博士研究員
2006年　九州大学大学院医学研究院　脳神経外科学　助手、助教
2009年　九州大学病院　脳神経外科　講師
2017年　九州大学大学院医学研究院　脳神経外科学　准教授
2018年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経外科学　教授
2020年　鹿児島大学病院　病院長補佐（病床管理担当）

鹿児島大学大学院医歯学総合研究科
脳神経外科学

花谷　亮典 准教授（診療教授、てんかんセンター長）

1990年　鹿児島大学医学部　卒業
1998年　広島大学大学院医学研究科　修了
2003年　フランス国立保健医学研究機構　博士研究員
2005年　広島大学病院　脳神経外科　助手、助教
2008月　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経外科学　助教
2010年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　脳神経外科　講師
2010年　トロント小児病院小児神経科脳波モニタリングユニット　博士研究員
2013年　鹿児島大学病院　てんかんセンター長
2017年　鹿児島大学病院　診療教授
2019年　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経外科学　准教授

鹿児島大学病院　脳神経外科

米澤　大 助教（医局長）

2002年　鹿児島大学医学部　卒業
2002年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員（研修医）
2003年　熊本済生会病院
2004年　鹿児島県立大島病院
2007年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　医員
2010年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　救急部　特任助教
2015年　鹿児島大学医学部・歯学部附属病院　脳神経外科　助教
2019年　国立がん研究センター中央病院　脳脊髄腫瘍科　レジデント
2020年　鹿児島大学病院　脳神経外科　助教
　　鹿児島大学大学院医歯学総合研究科　脳神経外科学　医局長

脳神経外科

Neurosurgery

スキルの高い人材と診療科連携、最先端機材の活用により神経系疾患の予防から予後管理まで、質の高いケアを提供。

ー脳や脊髄の神経系疾患に対する高度な手術治療のみならず、幅広い診療を行っているそうですね。

診療の対象は、主に脳腫瘍、脳血管障害、認知症に関連する疾患、頭部外傷などです。わが国では、脳神経外科は基本的診療領域に属しており、手術治療のほか、神経系疾患の予防、診断、術後の管理まで、非手術的治療も含め、幅広い領域をカバーしています。大学病院の脳神経外科として、呼吸器内科、放射線科、小児科など院内の各専門領域との連携のもと、診断・治療にあたっています。当院で専門性の高い治療を受けた患者さんに関しては、退院後もかかりつけ医へのアドバイスを通じ、長期にわたるケアを行っています。

ーこの15年間で延べ入院患者数が約3倍、手術総数約2.5倍と着実な成果を挙げています。その原動力は？

ニューロナビゲーションシステム、術中MRI装置をはじめとする最先端の機器、装置が充実していることが一つ。また、脳神経外科は、脳腫瘍、機能、小児など7つの分野（サブスペシャリティ）がありますが、当科には、九州で唯一、全分野のエキスパートがそろっているという強みがあります。併せて、新たな治療法の確立に対しても積極的に取り組んでおり、病理学教室等との協働により、次世代技術を用いた遺伝子パネルを使った「脳腫瘍の統合的病理・遺伝子診断システム」を構築し、現在、臨床に応用する準備を進めています。てんかんの領域に関し、離島を対象とするweb診療も近く導入する予定です。

ー人材育成にも注力されていらっしゃいますね。

技術先進地での研修やハンズオンセミナーなど、長期的視野に立った人材育成を継続しています。サブスペシャリティの充実も、その成果の一つと言えます。脳神経外科医は、多岐にわたるキャリアアップの道があり、男女問わず、生涯を通じて脳神経外科専門医として活躍できる場があることから、近年は女性医師も増えています。キャリアパスについてホームページで詳細な情報を開示し、医局説明会なども随時開催し、医学部生や研修医の熱意を育てることを心がけています。

（聞き手：鹿児島大学病院 広報担当副病院長 宇都 由美子教授）

看護部 Nurse Division's Activity

患者さん中心の安心・安全・癒やしの看護

Topics 01

医師、看護師、リハビリ部門(理学療法士・作業療法士・言語聴覚士)、医療ソーシャルワーカーが団結！

C棟3階病棟　脳神経内科

全国から来院される患者さんを鹿児島弁で温かくお迎えしています。私達、脳神経内科看護チームの強みは、病名が確定した時や症状が進行した時の辛い気持ちに寄り添いながら、入院時の早い段階から、医師、看護師、リハビリスタッフ、退院支援看護師、医療ソーシャルワーカーが一丸となって、自宅生活や社会復帰を目標に掲げ、療養生活の送り方、生活リハビリの訓練、社会福祉制度の利用等について患者さんやご家族と話し合いながら、一緒に取り組んでいます。退院後の患者さんから、「看護師さんとリハビリの先生が一緒に教えてもらえたおかげで、家に帰ってからも安心して生活できています。」と、近況のご報告をいただくこともあり、患者さんお一人お一人の希望が実現できるような看護を提供することを心がけています。

脳神経内科担当の多職種メンバー：退院支援看護師、看護師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士、作業療法士

ベッドから車椅子への移動練習の様子

Topics 02

患者さんと家族の笑顔が見たい！だから私たちもいつも笑顔で寄り添いたい！

B棟3階病棟　脳神経外科

「多職種と取り組む、患者さん・ご家族に寄り添う看護」

B棟3階病棟では、脳腫瘍や脳血管疾患など脳神経外科領域の疾患を患う方々の検査・治療から社会復帰を視野に入れた看護を提供しています。心身の機能回復のためにほとんどの方がリハビリを必要とし、医師、看護師、特に脳卒中看護をはじめとする認定看護師や理学療法士、薬剤師などの多職種が専門性を発揮し、患者さんの持てる能力を最大限に引き出し維持・向上できるように取り組んでいます。そして、患者さんやご家族が安心して笑顔でご自宅や次の療養の場へ移行できるように、「ここで手術や入院ができてよかった」と言ってくださる患者さんの言葉を励みに、いつも笑顔で毎日頑張っています。

B3 病棟看護師たち

歯科診療部門
Dental Division's Activity

口腔の健康から全身の健康を守る

臨床技術部
Division of Clinical Technology

診療部門と連携し、支援を行う専門職種集団

歯周病対策で歯を失わずに健康寿命を延ばしましょう！
歯周病科 「歯周病の治療は糖尿病の改善に有効とされています」

歯周病はお口の中の細菌（歯垢）によって歯を支える組織が壊れる病気です。歯茎の出血・腫れ、歯がぐらぐらするなどの症状が見られ、歯を失う最大の原因です。歯を失わないためには日常の適切な歯のお手入れと、早期の治療が重要です。また、歯周病は、お口の中だけでなく、全身の健康にもよくない影響（糖尿病、誤嚥性肺炎、認知症など）を及ぼすことがわかってきています。特に2型糖尿病では、歯周病の治療による血糖値の改善（HbA1c値が約0.4%減少）が報告されています。歯周病の治療によりお口の中の環境を改善するとともに、全身の健康づくりを始めていきましょう。

当院が行なっている糖尿病教室の歯科衛生士による歯周病の説明の様子。歯周病の治療に関して、お気軽にご相談ください。

食事の基本は姿勢から　青天を衝けるか!?
リハビリテーション部門 「食事の姿勢の話」

食事の姿勢には大きく分けて、椅子等に腰かけ自分で食べる場合とベッド上の介助で食べる場合があります。今回は後者の姿勢を想定して少しアドバイスします。ベッドの背上げの角度は一般的には30度以上が推奨されていますが、出来るだけ60度以上に保ち、腰とベッドに隙間ができないようにします。顎(あご)と胸の距離は指が4本程度入る距離になるよう枕等で調整することで飲み込みやすくなります。膝の下にクッション等を入れ股関節と膝関節が軽く曲がるようにします。足底にもクッションなどを設置することでより姿勢が安定します。安全な姿勢で食事を楽しい時間にしましょう。

右利きの介助者は対象者の右側から介助します。献立や具材を説明しながら介助すると、食欲と笑顔が UP することでしょう。

感染制御部　We are “コロナファイターズ”！

（撮影のため一時的にマスクを外しています）

医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師という多職種による協働のメリットは？

感染制御部は、各職種で感染対策に関する認定資格を有するスタッフが集まる、高い専門性を有する集団です。各分野のプロフェッショナルとして、異なる立ち位置・違う視点を持ちながら、患者さんにとってのメリットという共通の着地点を目指すことで、ブレることのないチーム医療が成り立っていると思います。

今後、新興感染症対策に生かされるであろうCOVID-19で得られた教訓は？

感染対策のために望ましいことが現場でどうすれば実行できるかを考える必要性とコミュニケーションの重要性を感じました。手指消毒やマスクなど適切な防護具の着用といった標準予防策について、さらに徹底を図る必要があります。他方、今回のことで大学病院内だけではなく他の医療機関や地域、行政とのネットワークの強化につながったという面もありました。

組織横断的な業務改革に不可欠なことは？

コミュニケーションを密にして、現場の問題点を拾い上げてカイゼンにつなげることが必要である一方で、緊急時には、リスクアセスメントをもとに全組織に情報を周知し迅速に対応していくことも不可欠だと感じました。

鹿児島大学病院基金へのご寄附のお願い

お問い合わせ先 鹿児島大学病院 総務課 企画・広報係
TEL：099-275-6692　FAX：099-275-6846
Eメール：kufsyomu@kuas.kagoshima-u.ac.jp
基金ホームページ：
https://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/fund/

大学病院では、外来及び病棟における患者さんのお世話などをしていただくボランティア活動員を常時募集しています「鹿大活き活きボランティア」にご興味のある方は、お気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先 鹿児島大学病院 医務課 医療相談係　TEL：099-275-5157

表紙の写真　（左上）脳神経内科研究室での細胞染色作業の様子、（右）脳神経外科での手術中の様子、（左下）染色した筋病理細胞写真

鹿児島大学病院広報誌　桜ヶ丘だより　56号
発行日／2021（令和３）年４月発行　発行／鹿児島大学病院広報委員会
〒890-8520 鹿児島市桜ヶ丘8丁目35番1号　TEL 099-275-6710　URL：http://com4.kufm.kagoshima-u.ac.jp/